

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	よこはましりつみなみこうとうがっこう				②所在都道府県	神奈川県
27～31	① 学校名	横浜市立南高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	平成27年度より附属中学からの進学者を含め全学年が揃い、高校各学年5学級在籍数 596名である。	
高校普通科	198	198	40		436		
⑥研究開発構想名	国際都市横浜発 次世代ビジネスリーダーの育成						
⑦研究開発の概要	横浜の地域性を活かし、横浜市立大学や地元企業等の協力のもと、「総合的な学習の時間」を中心に、東南アジア地域を主たるフィールドとして、持続性のあるソーシャルビジネスによって社会の課題を解決するアイデアを構想し、実践することができる次世代ビジネスリーダーの育成に資する研究開発						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>国際都市横浜の地域性を生かし、大学やグローバル企業、国際機関の支援を得て、貧困や資源開発、環境保全など東南アジアの課題解決を目的としたソーシャルビジネスを構想する探究活動を通して、創造力ある志の高いグローバル人材を育成する。</p> <p>○多様な文化や価値観を理解し、グローバルな視点で課題をとらえる生徒を育成する。</p> <p>○提案型の課題研究を進め、主体的に学ぶ生徒を育成する。</p> <p>○将来、世界のために自分の力を役立てようとする意欲のある生徒を育成する。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>平成24年に中高一貫校として改編された本校は、世界で通用する豊かな人間性と幅広い教養を兼ね備えたグローバルな人材を育てる学校を目指しており、附属中学での課題探究型学習の成果も現れはじめている。そのミッションを実現するために生徒が主体的に学び自ら探究する力を育てる必要がある。グローバル社会での将来像を描き、横浜から日本を牽引しようとする志の高い生徒を育成する必要がある。</p> <p>(ア) 多様な文化や価値観を体験的に理解することで、グローバルな視点で課題を捉える力が向上する。「立命館アジア太平洋大学研修」「テンプル大学アカデミックプログラム」「国内外イマージョン研修」など、外国の学生とディスカッション等をして交流する機会を設ける。授業においてもグローバルな視点で課題を捉えるよう全教科でカリキュラム開発を進める。</p> <p>(イ) 「調査力」「提案力」を養い、批判的・論理的な思考法を身に着けることで学習の質が向上する。総合的な学習の時間「TRY&ACT」では東南アジアを主たるフィールドとして、持続的発展を図るソーシャルビジネスについて構想し提案する課題研究活動を行う。海外フィールドワーク等も取り入れながら、「調査力」「提案力」を養うとともに、全教科でアクティブラーニングに取り組み、自ら学ぶ意欲ある生徒を育成する。</p> <p>(ウ) 「グローバルリーダープロジェクト」の開発により、キャリアイメージがグローバルに拡大する。「TRY&ACT」の課題研究の深化を希望する生徒を選抜しグローバルリーダープロジェクトとして展開する。国際社会で活躍する人との接触により、キャリアイメージが拡大し世界を舞台に活躍しようという意欲が高まる。</p> <p>(3) 成果の普及</p> <p>(ア) 探究活動発表会(2学年対象)を毎年2～3月(平成28年度～)に実施する。</p> <p>(イ) 研究紀要の発行とSGH指定校との連携を図り、相互の交流と先端的な取組に関する情報を共有し、積極的に他校を訪問し、発表を行う。</p> <p>(ウ) 学校ホームページに「TRY&ACT」のサイトを開設し、実施状況を世界に向けて発信する。</p>					

⑧ -2 課題研究	<p>(1) 課題研究内容 総合的な学習の時間の名称を「TRY&ACT」として、「異文化理解に基づいて、貧困や資源開発、環境保全など東南アジアの諸課題」を主なテーマとし、その解決のためのソーシャルビジネス等のプランを提案する活動を行う。</p> <p>(ア) 「TRY グローバル」・・・1年生の段階では、東南アジア諸地域の実態を理解するとともに、生活様式や価値観など異文化理解を深める調査研究活動を行う</p> <p>(イ) 「ACT グローバル」・・・2年生では、1年生の探究活動の成果を踏まえ、JICA 横浜や横浜市立大学などのグローバル社会で活躍している専門家からのアドバイスを受け、「貧困や資源開発、環境保全」などのテーマを設定し、その課題を解決するためのアイデアやビジネスプランを提案する。</p> <p>(ウ) 「ACT グローバルリーダープロジェクト」・・・3年生でこれらの研究活動を引き続きすすめる生徒 40 名については、横浜市立大学国際総合科学部系等の支援を受けて、課題研究を深める。また、研究成果を公表する。</p> <p>(エ) 国内外におけるイマージョン研修では、コミュニケーション力と英語での論理的思考力を向上させるとともに東アジアの諸課題を発見させ、次世代ビジネスリーダーとしての資質を養い、東アジアにおけるこれからのビジネスの在り方を探究する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <p>(ア) 「TRY グローバル」は1年生全員を対象に、主として土曜日に実施する。地球規模的な課題についての講演やワークショップを中心にグループで研究を進める。APUでの研修は、英語でディスカッションやインタビューを行い、情報収集と分析を行い、英語での発表やポスターセッション等で評価を得る。</p> <p>(イ) 「ACT グローバル」は2年生全員を対象に、テーマを絞り込んだ探究活動を行い、文化祭で発表を行う。さらに海外研修旅行において現地企業やその社員の取材調査やリサーチ活動を行い、英語での発表と事後学習として、レポートを作成し評価を得る。</p> <p>(ウ) 「ACT グローバルリーダープロジェクト」は地球規模的な課題への指向性が高い3年生中心に40名を選抜し、国内外のフィールドワークやインターシップを通して、個人の探究活動をさらに深め、課題論文の作成や大学等での研究発表を行い、評価を得る。</p> <p>(エ) イマージョン実習では、シンガポールや立命館 APU において企業人や学生との英語でのディベートやディスカッションなど通じて東アジアの現状を認識し、諸課題を発見する。その過程のなかで多文化共生の在り方や情報収集や資料の作成などの手法を習得する。事後報告会を行い、外部評価を得る。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特例の適用は予定していない。</p>
⑧ -3 上記以外	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>(ア) 全教科で論理的思考力及びコミュニケーション力を育てるための研究開発を行う。</p> <p>(イ) 海外大学進学を目指す生徒の支援のための指導法の研究をする。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</p> <p>(ア) 中高一貫教育校の特例を活用して、高校の国語総合、数学 I、数学 A、コミュニケーション英語 I の一部を中学3年生で履修する。</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の実施内容・実施方法</p> <p>(ア) カナダの姉妹校との相互訪問の交流を継続、活性化する方法の検討を行う。</p> <p>(イ) 海外留学生受け入れ制度整備による外国語でのコミュニケーションの日常化を図る。</p> <p>(ウ) 連携大学教員や大学院生による研究の進め方、論文作成方法に関する指導を行う。</p> <p>(エ) 「TRY&ACT」の WEB サイトを開発し、学校情報や研究成果を発信する。</p> <p>(4) 幹事校としての取組（該当する場合のみ記入） なし</p>
その他 特記事項	<p>○ 1、2年生は全員、3学年時は40名程度の生徒をSGH課題研究の対象とする。</p> <p>○ スーパーグローバルハイスクール推進委員会を設置（以下） 担当副校長、企画部研究所属の教員、国際部所属の教員、経理担当の事務職員</p>

ふりがな	よこはましりつみなみこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	横浜市立南高等学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）									
		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	440人
	SGH対象生徒以外:	592人	586人	人	人	人	人	人	160人
目標設定の考え方: 中高一貫教育校総合的な学習の時間の前期3年目の論文、後期課程2年目の3課題について全員が取組む。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	10人
	SGH対象生徒以外:	0人	0人	人	人	人	人	人	0人
目標設定の考え方: 横浜市立高校海外進学推進拠点校等として、今後27年度入学生以降について海外進学や留学の推進強化を行う。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:	20%	20%	%	%	%	%	%	50%
目標設定の考え方: 海外進学推進拠点校として、また、総合的な学習の時間での「国際貢献」への各取組が27年度から本格化する。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	5人
	SGH対象生徒以外:	1人	0人	人	人	人	人	人	0人
目標設定の考え方: 総合的な学習の時間、前期EGGと後期TRY&ACTでの課題研究への取組の中で大会等の参加者が増加する。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:	20%	20%	%	%	%	%	%	60%
目標設定の考え方: 中高一貫教育校前期課程終了時(26年度)から順次、計画的にレベルについて数値目標を立ててすすめる。									
(その他本構想における取組の達成目標) 将来国際機関やグローバル企業のリーダーとして活躍する生徒数									
f	SGH対象生徒:								10人
	SGH対象生徒以外:	592人	586人						5人
目標設定の考え方: 中高一貫教育校の特徴を生かし、6年間の中で高いコミュニケーション力を身につけて、国際的な環境で実習を経験させる。									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:		20%	20%	%	%	%	60%
目標設定の考え方: 29年度から中高一貫校の卒業生となり、進学先は内容が大きく変化する。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	15人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人	人	人	人	3人
目標設定の考え方: 横浜市立高校海外進学推進拠点校等として、今後27年度入学生以降の海外進学や留学を推進していく。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	100%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	60%
目標設定の考え方: 中高一貫教育校総合的な学習の時間、前期課程EGGと後期課程TRY&ACTでの課題研究への取組が具体化する。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	100人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	20人
目標設定の考え方: 前期課程EGGと後期課程TRY&ACTでの課題研究での課題探求の成果が大学進学後も生かされる。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	0人	人	人	人	人	人	208人
目標設定の考え方: 中高一貫教育後期課程で全員を対象とした研修を実施し、その総数と個々に行う研修を見込む。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	0人	0人	人	人	人	人	人	210人
目標設定の考え方: 中高一貫教育校総合的な学習の時間、後期課程Try&Actでの参加目標値。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	1校	1校	校	校	校	校	校	4校
目標設定の考え方: 27年度からの後期課程TRY&ACTでの取組内容に沿って、現在の姉妹校以外に連携大学・高校を増加する。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	5人	10人	人	人	人	人	人	80人
目標設定の考え方: 総合的な学習の時間での講座、ゼミ、体験的研究などへ現在よりもさらに多くの外部人材を起用予定。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	1人	1人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方: 総合的な学習の時間での講座、ゼミ、体験的研究などへ多くの外部人材を起用予定。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	0人	0人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: TRY&ACTグローバルイシュー3課題それぞれの中で、発展的な研究過程で参加人数が増加する。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	0人	0人	人	人	人	人	人	6人
目標設定の考え方: 横浜市立高校国際交流プログラムの拠点校として、海外留学生の受け入れを計画的に推進する。								
先進校としての研究発表回数								
h	0回	0回	回	回	回	回	回	2回
目標設定の考え方: 中高一貫教育校としての総合的な学習の時間中心の課題研究発表とSGH発表会の指導研究をすすめる。								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×						○
目標設定の考え方: TRY&ACTを通じて生徒の制作活動も取り入れながら、外国語版学校案内との内容の調整を図る。								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j								
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	592	586	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							